

昭和61年度普及区域指導活動記録

都道府県名 沖縄県
 専門技術員室名称 沖縄県改良普及所専技室
 普及区域 県下一円

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
企画事業	1. 沿岸漁業改善資金 運営事業	第1回	水産普及所	沿岸漁業者	漁政課	第1回 申請件数：46件 申請額：92,087千円	翌年度への展開事項
		第2回	7月		営農指導課	(1) 経営等改善資金	
		第3回	10月		水産指導課	44件—90,487千円	
		第3回	11月		市町	(2) 生活改善資金	
					県漁連	2件—1,600千円	
					普及職員	第2回 申請件数：34件 申請額：23,718千円	
					宮古支庁	(1) 経営等改善資金	
					八重山支庁	31件—21,318千円	
						(2) 生活改善資金	
						3件—2,400千円	
						第3回 (経営等改善資金のみ)	
						申請件数：59件 申請額：62,505千円	
						<u>合計</u>	
						申請件数：139件 申請額：178,310千円	

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
企画事業	2. 漁業技術一般研修	4月、5月 10月、12月 1月、2月	伊平屋、伊江 沖繩市、具志 川市、恩納、 糸満、勝連、 北中城	青年部 婦人部 生産グループ	市 町 村 漁 協	1. モズク盤体の冷蔵保存講習会の開催 ①伊平屋漁協青年部及び同生産部会、②伊江漁協生産部会(生育不良調査との関連で実施)、③沖繩市漁協青年部及び具志川漁業組合青年部との合同による講習会の開催。さらに北中城漁業組合において養殖全般についての講習会の開催、④勝連漁協津堅支部163人によるモズクの採苗から養殖管理についての実技指導(当支部は新規事業であり、年間生産1,000トン) 2. オゴノリの増養殖についての講習会の開催。 主にコレクター採苗について、①採苗方法、②移植漁場等スライドによる講習の実施、⑦伊平屋漁協青年部、⑧伊江漁協青年部会、⑨沖繩市漁協青年部、⑩糸満漁協与根支部及び婦人部との合同実施。 3. ヒジキの増殖についての学習会 漁場造成事業との関連で、青年部より要望があり実施した。管理の問題、	
		4月、5月 8月、1月	伊平屋、伊江 沖繩市、具志 川市、恩納、 糸満、金武	青年部 婦人部 生産グループ	市 町 村 漁 協		
		5月	金 武	青年部	漁 協		

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
企画事業		7月	国頭	漁業者	漁協	<p>植え付株等の確保で見合わせている。 ※(金武漁協青年部は62年2月19日現在、オゴノリのコレクター採苗に入っている。)</p> <p>4.イバラノリの養殖へ向けての個別指導 国頭漁協で自主的に実施したいとの希望があり、栄養体生長を応用した『インシュロックタイ』使用による結着法で指導した。</p> <p>※同漁協に於いては、昭和58年～59年にかけて「イバラノリの養殖試験」に係る実証事業を終えている。</p>	
調査事業	1.テトラ利用によるフトコブシ類の放流と生育調査	6月～12月	伊江	青年部	漁協	<p>1.テトラ利用によるフトコブシの放流 60年度の調査結果にもとづいて61年度6月には鹿児島県垂水栽培漁業センターで種苗生産した稚貝13,000個購入、同13日に放流した。垂水から那覇経由で伊江まで輸送したが長時間(16時間以上)にもかかわらず死貝も出さず完ぺきな輸送であった。放流は一旦放流カゴに移つて、テトラでは自然に放流カゴから移行するようセットした。3月現在継続調査中である。</p>	

事業区分	課	題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
調査事業	2.	漁協青年部巡回移動相談	6月30日 8月3日 8月22日 9月4日 10月24日 12月16日	石川 伊江 糸満 港川 知念 具志川	青年部	漁協	2. 漁協青年部巡回移動相談の実施 青年部の巡回移動相談については、別紙の目的と内容について実施した。61年度12月16日具志川漁業組合青年部でもって昭和61年度の巡回移動相談は終了した。(詳細については、61年度活動報告書参照)	
	3.	オキナワモズクの水揚げ及び養殖実態調査	8月～ 10月	35 漁協	市 村 協 漁 漁 協	昭和61年度オキナワモズクの水揚げ調査結果 1. 養殖モズク 生産量 4,399,470kg (60.1%) 金額 1,027,013,040円 2. 天然モズク 生産量 1,462,821kg (20%) 金額 237,775,937円 3. 天然糸モズク (養殖含む) 生産量 1,452,144kg (19.9%) 金額 358,601,005円 4. 総生産 ①生産量 7,314,435kg ②金額 1,623,389,982円		

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
試験事業	1. モズク種網の冷蔵保存試験 (技術改良試験)	6月～7月 採苗作業 8月～9月 保存	具志川 沖繩市	青年部 生産グループ	漁協、市町村	<p>1. 目的 安定した保存技術の確立と早期母藻確保の目的で実施。</p> <p>2. 方法 前回の方法と同じであるが今回は水試飼育棟内のパンライイト内水温が高水温のため海水水処理を延べ4回実施した。</p> <p>3. 経過 放出促出として、海水水処理を4回実施したにもかかわらず第1回同様満足の行く採種はできなかった。 (保存に適した胞子の放出量は×200で視野当り200～300個体) 冷蔵保存70日後10月4日に沖繩市漁場に沖出し、生育状況を月1回～2回調査した。</p> <p>4. 結果 第1回目同様に種網冷蔵については良好な結果を得ることはできなかった。</p> <p>5. 問題点 (1)採種時の高水温による採苗量の低下 (2)放出促進に伴う水処理の問題はなかったか。</p>	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
試験事業	2. オゴノリの増養植試験	1月～7月	糸 満 具 志 川	青年部 婦人部	漁協、市町村	<p>③沖出し時期が10月4日で少々早かったのではないかと、前半は水温が高めであり(27°~28°)冷蔵網以外の通常網についても良い結果を待てない。</p> <p>1. 目的 複合経営確立のための着業組合せのメニューとして、近年オゴノリ類の増殖への気運が高まってきた。</p> <p>2. 方法 (採苗タンクによる)藻体採苗による果胞子付け基質は、サンゴ片のコレクターを使用した。果胞子の放出促進のためには干出処理を実施した。</p> <p>3. 経過 約7日～10日間採苗後あらかじめ選定した漁場に放石し生育状況を調査した。生育については、予備試験で報告した通り9月頃まで盤状体から立ち上がった状態で夏をすぎ、9月以降から生育がみられ、3月には植物体の大きさは10～15cmまでに達した。</p>	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
試験事業	3. スジアオノリの養殖 予備試験	9月～ 3月	恩納村	ヒトエグサ養 殖生産グルー プ	漁協	<p>4. 結果</p> <p>(ア) 干出処理時間については、藻体を直接使用するより干出処理をすることにより果胞子の放出促進に有効であることが分かった。したがって、5～6時の干出処理がもっとも有効であり、15時～24時間処理は逆に放出低下となる。</p> <p>(イ) 4月～5月頃コレクター採苗すれば翌年の3月～4月には収穫が可能であることが分かった。(コレクター収量は婦人部により20～30kg程度におわった。部外者による採苗もあった。)</p> <p>5. 問題点</p> <p>(ア) 養果の形成時期の把握</p> <p>(イ) コレクター放流場所の底生の条件</p> <p>(ウ) 網養殖への展開方法</p> <p>(エ) ライフサイクルの確認</p> <p>1. 目的</p> <p>スジアオノリは、県外ではもともと商品価値の高い品種であり、県内では複合経営のメニュー化を図る品種として予備試験を実施した。</p>	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
試験事業	水産資源の増進と漁業の振興 （水産資源の増進と漁業の振興）	3月 4月	新 潟 県 水産資源の増進と漁業の振興	水産資源の増進と漁業の振興		<p>2. 方法</p> <p>(1) 採苗方法 遊走子をあらかじめ採取し、遊走子液を作りタンク内で散布して採苗する方法とタンクに直接スミアオリの藻体と網を投入して採苗する方法の両者を組合せて実施した。 (採苗期間は7日～14日間)</p> <p>(2) 養殖方法 5尺のノリ網を使用し採苗後は養殖方法確立のため、①接地した状態での網の展開と、②直接浮き流した状態での網の展開を試みた所、前者より後者が生成・着生とも良いことが確認された。</p> <p>(3) 生育経過 放流した遊走子は24時間で5～8μの球形となり、10日で0.1～0.3mmに立ち上がる。20日目で0.5mm～1.0mm、30日目には60mm～80mm、2月10日の53日目には35cm～40cmまでに達した。したがって、沖出し後50日～60日には収穫可能である。</p>	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
普及員	普及員一般研修	9月	水産改良普及所	普及員	専門技術員	オノゴリ増殖と複合経営及び漁場管理について研修会を実施した。	
	各種研究会、学習会等による資質の向上	8月～9月	知念漁協	青年部	水産改良普及所 市、町、村 漁協 水産試験場	①知念漁協青年部(パヤオ)による曳縄漁業：定置網漁を対象にそれぞれ漁業種類毎に青年部の意見を十分に取り入れた漁業日誌を作成し配布するとともに、営漁簿の記帳の必要性について、意見交換を行なった。 (作成に当っては鹿熊普及員対応) ②61年度は10漁協青年部を対象に巡回移動相談を実施し討議を重ねた結果、 (ア)青年部活動の課題設定の方向性、 (イ)進め方等について模索することができた。(詳細については、漁協青年部活動の進め方パンフ参照)	
漁業者		6月～12月	伊平屋、糸満 伊江、石川 港川、知念 勝連、具志川	青年部			
指導事業	1. 漁業普及養殖技術指導	12月～3月	勝連漁協 津堅支部	青年部 生産グループ	専門技術員 改良普及員 市町 漁協	①モズク関連の養殖指導については、60年度に新規地区の勝連漁協津堅支部を主体に養殖についての講習会を開催した。(参加者125名) 61年度は、講習内容について実践的に採苗から中間育成(苗床育苗)本養にいたる生産技術について、また収穫に向けての品質管理の方法について指導した。	

事業区分	課	題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
指導事業			1月～ 3月	具志川、糸満	青年部 婦人部	専門技術員 改良普及員 市、町、村 漁協	②オゴノリ関連の増殖指導については具志川漁業組合青年部を主体に、コレクター採苗を実施し、さらにノリ網への採苗技術の確立を図るため、コレクター採苗と平行して予備試験的な指導も実施した。	
	2.漁村青壮年婦人活動実績発表大会		10月	那覇市	3普及地区 漁協青年部 漁協婦人部 研究グループ	県漁連 関係機関	。県産業まつりの一環として、水産振興大会と呼応して漁村青壮年婦人の自主的な研究活動実績の成果を発表させ、相互間の交流活動意欲の向上を図る。 発表者：青壮年 4名 婦人部 1名 合計 5名 参加者：300名	

昭和61年度普及区域指導活動記録

都道府県名 沖繩県
改良普及員室名称 水産業改良普及所普及員室
普及区域 沖繩本島地区

事業区分	課	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
企画事業	沖繩本島地区漁村青少年協議会	漁村青少年協議会	6月			漁協、市町村 学識経験者 漁業者	<ul style="list-style-type: none"> 。昭和61年度漁業後継者対策事業の実 施計画について 。少年水産教室について 。青少年漁業士等育成事業説明 。漁村青年壮年婦人活動実績発表大会の 取り組みについて 	
			10月				<ul style="list-style-type: none"> 。昭和61年度漁業後継者対策事業の実 施状況について 。漁村青年壮年婦人活動実績発表大会の 取り組みについて 。昭和62年度漁業後継者対策事業の実 施計画について 	
			3月				<ul style="list-style-type: none"> 。昭和62年度漁業後継者対策事業の実 施計画について 。漁業士の認定について 	
		普及職員事業連絡会 議	5月		普及職員		普及活動の計画検討や活動状況の情報 1. 第1回会議 (1) 昭和61年度漁業後継者対策事業	

事業区分	課	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
						<p>の実施計画について</p> <p>(1) 昭和61年度漁業後継者対策事業の実施計画について</p> <p>① 少年水産教室について</p> <p>② 青年漁業士等育成事業について</p> <p>③ 昭和61年度発表大会について</p> <p>(2) 普及職員協議会の運営について</p> <p>2. 第2回会議</p> <p>(1) 昭和61年度実績発表大会について</p> <p>(2) 少年水産教室の反省について</p> <p>(3) 昭和62年度漁業後継者対策事業計画について</p> <p>(4) 昭和61年度普及課題中間報告について</p> <p>3. 第3回会議</p> <p>(1) 昭和61年度漁業後継者対策事業等実施状況報告</p> <p>(2) 昭和62年度普及事業予算確定状況報告</p> <p>(3) 昭和62年度漁業後継者対策事業等計画について</p> <p>(4) 昭和61年度普及課題実施状況報告と次年度計画について</p> <p>事業計画の検討、事業の指導、貸付後の運用調査を行った。</p>	
	沿岸漁業改善資金運用事業	4月～3月	普及地区	漁業者	漁協、市町村		

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項																				
	沿岸域計画漁業推進事業	61、4月 62、3月	伊江武 金	漁業者 漁業者	市町村、外	<p>1. 現状把握 組合員を対象にアンケート調査を実施する他、統計資料を収集する等分析を行った。</p> <p>2. 営業意向の把握 業態別に漁業者の懇談会を開き、地域漁業の問題点及び営業意向を整理した。</p> <p>3. 営漁計画の作成 漁協、市町村、現地検討会を中心に営漁計画を作成した。</p>																					
	漁業士育成事業	12月～ 3月	沖縄一円	青年及壮年 漁業者	漁協、市町村	<p>昭和61年度は下記のとおり認定した。 地域名、漁協名、漁業士種別、認定人数 沖縄本島地域</p> <table border="0"> <tr> <td>北部</td> <td>{ 伊江漁協</td> <td>指導漁業士</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>{ 国頭漁協</td> <td>青年漁業士</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>中部</td> <td>{ 石川漁協</td> <td>青年漁業士</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>{ 糸満漁協</td> <td>指導漁業士</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>南部</td> <td>{ 久米島漁協</td> <td>青年漁業士</td> <td>1人</td> </tr> </table> <p>宮古 伊良部町 青年漁業士 1人 地区 漁協</p> <p>合計 6人</p>	北部	{ 伊江漁協	指導漁業士	1人		{ 国頭漁協	青年漁業士	1人	中部	{ 石川漁協	青年漁業士	1人		{ 糸満漁協	指導漁業士	1人	南部	{ 久米島漁協	青年漁業士	1人	
北部	{ 伊江漁協	指導漁業士	1人																								
	{ 国頭漁協	青年漁業士	1人																								
中部	{ 石川漁協	青年漁業士	1人																								
	{ 糸満漁協	指導漁業士	1人																								
南部	{ 久米島漁協	青年漁業士	1人																								
調査事業	漁業公害調査	4月～ 3月	沖縄本島地区 9地点		漁協、市町村	<p>主として養殖漁場付近の水質調査を毎月2回実施した。</p> <p>(1) 測定場所：名城、志喜屋、与那原、北中城、与那城、石川、屋嘉田、羽地、塩屋</p>																					

事業区分	課	題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
	ウニの漁場調査		4月～3月	伊平屋村	漁業者	漁協、市町村	(2) 測定項目：DO、PH、比重、水温、気温、天候、風向、風力 結果は主管課報告 伊平屋村漁協のウニ水揚に便乗して調査を予定したが、生産停止にあり、調査が不可能となった。	打ち切り。生産地域の減少により便乗調査が不可能となっている。継続
	ウニの水場調査		4月～3月	沖繩本島地区	漁業者	"	昭和61年度の沖繩本島地区のウニ水揚状況は下記のとおり。 地区 生産量 生産額 平均単価 (kg) (円) (円/kg) 今帰仁村 5,489.2 41,686,830 6,152 名護市 458.5 2,425,040 "	
	ウニの販売流通調査		"	"	"	漁協、組合員 沖繩海産物集荷販売卸売商組合	ウニの流通販売の仕組みについて、実態把握に努めた。 今回の調査でウニの流れをうきざりにすることができた。 調査方法は現場でのウニ漁業者に対する直接聞きとりと、沖繩海産物集荷販売卸売商組合の協力による。詳細は昭和61年度普及活動実績報告書参照。	打ち切り
	ウニ漁業経営調査		4月～3月	沖繩本島地区	漁業者	漁協、組合員	ウニ漁業による収益性について、水揚げと直接聞きとりの両方の組み合わせによって調査した。詳細は昭和61年度普及活動実績報告書参照。	調査対象（人、場所）を変えて継続したい。

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
	ナマコ調査	"	"	"	漁協、市町村	ナマコの一次加工利用について直接現地調査した。詳細は別途報告書参照。	打ち切り、水揚げが不安定のため、調査日が調整できない。
研修事業	水産業改良普及員行政研修	5月	糸満	普及員	専 技	専門技術員による行政一般及び専門事項についての研修。	
	水産業改良普及員行政研修	3月	東京	"	水産庁	水産業の現状、沿岸整備事業、流通、後継者、題、営業についての学習。	
	技術交流会	7月24～26日	与那国	漁業者	八重山支庁、漁協	具志川市漁協の上洲氏、伊平屋漁協から名嘉氏が参加。与那国においてカジキ曳縄漁業の技術、鮮度保持、流通対策について技術交流会を実施した。	
	特別研修	7月1日～7日	宮崎県日向市漁協	"	宮崎県	「近海マグロ延縄漁具漁法について」宮崎県で開発されたサイロンテングス延縄漁法について現地の漁協において研修した。乗船実習や漁具の製作実習。 参加者 { 沖繩市漁協 金城 具志川市漁協 安慶名	
試験事業	新技術実証事業「モズク盤状態の冷蔵保存による発芽生育試験」	5月～3月	糸満	研究グループ	専技、漁業者	61年度の専技による技術改良試験の結果を受けて実施。 。塩ビ板に盤状態を採苗する。 。ビニール袋に少量の海水を入れ、	

専業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
	フクトコブシ増殖試験	4月～3月	伊江村	漁協青壮年部	漁協、市町村 水試	<p>袋を二重にして冷蔵庫に入庫、保存。</p> <p>・出庫して網に採苗</p> <p>・養殖漁場へ網の張り出し (実績報告書参照)</p>	
指導事業	魚類の鮮度保持指導	4月3日	石川市	青壮年部	漁 協	<p>6月13日鹿児島県栽培漁業センターからフクトコブシ稚貝(殻長約2cm)13,000個を伊江村具志漁港離岸堤に放流し、漁協青壮年部と追跡調査を行った。(詳細については、昭和61年度水産業改良普及活動実績報告書参照)</p> <p>鮮度保持のパンプレットを作成し、各地で鮮度保持に関する講習会を開催した。</p>	
		6月6日 7月15日 9月2日 12月2日	久米島 伊江島 金武 北大東	研究グループ	市町村	<p>要点 ① アバレの防止</p> <p>② 血抜き徹底</p> <p>③ シメ</p> <p>④ 水ごおりの使用方法</p> <p>⑤ 魚倉改善</p>	
	ヒトエグサ養殖指導	10月～3月	北中城	"	"	<p>今期は水温が高かったことと、養殖管理が不十分だったことで雑藻が多かった。</p>	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
	モズク養殖指導	"	"	"	"	今期から試験的に養殖を開始したので、その指導にあたった。 養殖網40枚を漁場に設置	
	ウニ漁業指導	4月～3月	沖縄本島地区	漁業者	漁協、市町村	昭和61年度は与那城漁協のみにて実施。青壮年婦人併せて40名参加。ウニ処理講習といただきあわせて、資源維持に対する考え方を資源管理型漁業として意見交換した。	昭和62年度からは課題名を「資源管理型漁業の推進」に切り変えて継続したい。
	魚類養殖事業	"	塩谷、羽地、北谷	養殖業者 研究グループ	漁協、市町村	魚類養殖の学習会と養殖技術の実施指導を実施した(詳細については、昭和61年普及活動報告書参照)。 (1) マダイ：実際に4,000尾養殖した養殖経営収支から経営試算を行った。 (2) ハマフエフキ：養殖業者が水試八重山支場から購入した4,000尾の養殖試験を実施中で養殖経営収支を出す。	
	オニテナガエビ養殖指導	4月～3月	名護市 名帰仁村 石垣市、他	内水面養殖業者	養殖組合	うなぎ養殖施設を利用した、オニテナガエビ養殖指導を実施した(詳細については昭和61年度普及活動報告書参照)	

事業区分	課	題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
							<p>1. 石垣市の養鰻場で約10,000尾の中間育成試験と養殖試験を実施した。</p> <p>(1) 中間育成試験(稚エビから体長2~3cmまで)</p> <p>① 期間：60日</p> <p>② 歩留り：84.0%</p> <p>③ 増肉係数：6.95</p> <p>④ 取揚げ平均体重(g)：0.52g</p> <p>(2) 養殖試験</p> <p>① 期間：177日(6カ月)</p> <p>② 歩留り：70.4%</p> <p>③ 増肉係数：2.14</p> <p>④ 取揚げ平均体重：193g</p> <p>⑤ 取揚げ重量：135kg</p>	
	漁協青年部巡回移動相談		"	普及地区	青年部 青壮年部	漁協、市町村	<p>漁協青年部や青壮年部の活動状況等についての意見交換を行い、地域にあった青年部活動を検討した。実施場所は久米島、伊平屋、石川、糸満、伊江、港川、知念、具志川であった。</p> <p>①「私の組合運営と生産管理」</p> <p>伊平屋漁協組合長 西銘仁正</p>	
	青年水産教室		6月12日	石川市	組合員 市町村	漁協		

事業区分	課	題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
							<p>要約・組合員が組合の主人公であり役員や職員はその手助けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組合員は協同の原則に添って一丸となり、地道な活動をすすめる。 ・自分で出来ることは自分で、出来ないことは協同の仲間と、それでも出来ないことを組合職員と実施する。 ・漁協運営は徹底して論議し民主的に方向を決定する。 	
			11月3日	糸満市	組合員 市町村	漁協	<p>②③④「マグロ釣りに係る漁具漁法」</p> <p>神奈川県専技 池田義明</p> <p>要約・各地のマグロ漁具漁法の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁場探査や漁具の改良法 自己の乗船経験やマグロ船の漁ろご 長の経験をもとに、漁場の自然現象を注意深く観察し、常に改良を加えることで漁獲のアップを図る方法を講演した。 	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
	青年水産教室	3月16日 3月17日	沖繩市 本部町	漁業者	市町村、漁協	⑤⑥「海面養殖の生産管理と経営」 愛知県専技 岩田静昌	
	少年水産教室	8月4日 ～8日	普及所	中学生	〃	中学生を対象に水産の初歩的学習の開催 5日間 13人受講 ①伊江漁協青年部 「フクトコブシ増殖試験に取り組んで」 ②石川漁協青年部 名嘉清文 「青年部活動と漁場管理」 ③八重山漁協青年部 名嘉秀三 「漁業後継者を志して」 ④伊良部漁協青年部 伊良波淳世 「マグロのヤケ対策について」 (知事賞) ⑤八重山漁協婦人部 並里清子 「私の歩んできた道」	
	漁家経営改善モデル 漁家指導	4月～ 3月		漁業者	漁協	昭和61年度は伊平屋村で延縄漁家を指定して経営改善について指導調査にあたった。どの月も出漁日数が10日ぐらいいという成績で、水揚量が悪く、そ	

事業区分	課	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
	漁家経営改善モデル 漁家指導	4月～ 3月		漁業者	漁協	の割には支出経費が大きくて、生産性に比較して支出経費が相当高くなっている。操業日数を増やして水揚げの向上を図るよう指導した。詳細は昭和61年度普及活動実績報告書参照。	
	漁村青壮年婦人活動 実績発表大会	10月18日	那覇市 那覇東町会館	青壮年部 婦人部 研究グループ	漁協、市町村 関係機関	①伊江漁協青壮年部 宮里 哲也 「フクトコブシの増殖試験に取り組みで」 ②石川漁協青壮年部 名嘉 清文 「青年部活動と漁場管理」 ③八重山漁協青年部 名嘉 秀三 「漁業後継者を志して」 ④伊良部漁協青年部 伊良波 淳世 「マダロのヤケ対策について」 (知事賞) ⑤八重山漁協婦人部 並里 清子 「私の歩んできた道」	

昭和61年度普及区域指導活動記録

都道府県名 沖縄県
 改良普及員室名称 宮古支庁農林水産課
 普及地区 宮古地区

事業区分	課	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への転用事項
企画事業	宮古地区漁村青少年協議会	漁村青少年協議会	9月8日 11月20日 3月予定	平良市 平良市	後継者	3 漁協 市町村 学識経験者	漁業後継者対策事業の検討策定のため の委員会開催（年3回） 第1回 1. 昭和62年度漁村青少年婦人活動実績発表大会の取組について 2. 青年水産教室の取組みについて 3. 少年水産教室の報告 まとめ 1. 活動実績発表大会については伊良部町漁協青年部長 長間浩が「マグロのヤケ対策について」をテーマに発表する婦人の部は、該当者がいないため来年に発表させる。 2. 青年水産教室は漁業権漁業と密猟防止についてをテーマに講師を選べる。 3. 少年水産教室は県全体で14名の参加、宮古地区からの参加者はなかった。	漁村青少年の意向集 約実践活動の評価 委員会活動の自主性

事業区分	課	題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への転用事項
企画事業							<p>63年度は宮古水産高校と連携して宮古開催を実施する。</p> <p>第2回</p> <p>1. 漁村青年壮年婦人活動実績発表大会の報告 伊良部町漁協青年部の伊良波淳世が「マグロのヤケ対策について」を発表知事賞を受賞した。</p> <p>※今後の計画はカラー魚探を利用した浮魚礁でのキハダマグロの漁獲試験を行なう。</p> <p>2. 交流学習会の取組について (11月26日) 神奈川県水産試験場普及部の池田義明専技が「マグロの漁具漁法について」をテーマに講演する予定</p> <p>3. 漁協青年部、研究グループ交流会の取組について</p> <p>11月24日に伊良部町漁協青年部主催の漁民運動会があるのでそこに協議会委員、平良市漁協青年部も参加してから日程は決める。</p> <p>改善資金の事業計画の検討策定及び申請書類の検討のための委員会への参加</p>	運用面での沿岸漁業改善資金の貸付事業の普及指導し、活動の中に取り組む。
	沖繩県沿岸漁業改善資金の運用事業		8月 11月 2月	普及所(糸満)	漁業者協	漁協、市町村 農業改良普及所		

事業区分	課	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への転用事項
調査事業	漁業公害調査	4月～3月	平良市(真謝)		平良市漁協	海浜状況観測及び水質調査実施 (水温、DO、PHについて調査結果は 集計中)	調査時点が養殖漁業 と直接かかわった地 点がよいと思っ たので、地点を久松、与 那覇湾内に変更する	
	魚礁の効果調査	4月～3月	管内全域	漁業者	平良市漁協 池間漁協	人工礁、及び並型魚礁の設置位置指導 及び効果調査を周知すべく沿整用務に 協力した。 調査1. 来間 北西沖 ウー礁の効果調査 調査位置 1 大神島地先 2 島尻地先 } 予定		
	マグロの流通調査	4月～3月	平良市 伊良部町	漁業者	平良市漁協 伊良部町漁協 南西航空 先島共同運行	浮魚礁から取れる大型のキハダマグロ の市場開拓資料にするため、沖縄本島 本土各市場に出荷した数量、経費を調 整した。 * 別添資料参照		
	ノコギリガサミ放流 効果調査	4月～3月	下地町入江	漁業者	下地町 下地町漁業研 究グループ	昭和60年7月に3,200尾、61年7月に 7,000尾、下地町入江に放流した。 ノコギリガサミの放流効果調査を2回 実施した。又、効果をあげるために 1年間の禁漁期間を決め啓蒙指導を 実施した。		
指導事項	巡回指導 (クビレズタ養殖)	4月～3月	下地町入江	下地町漁業研 究会	下地町 平良市漁協	特区158号でサランネット方式とモ ズク古網に母藻を結着し、増殖を行な った。	7名のグループ員の うち、着来している 者が2人と少なく、	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への転用事項
指導事業	(モズク養殖)	4月~3月	管内全域	狩良漁業生産グループ 島尻漁業生産グループ 池間漁業養殖研究会 城辺町モズク組合	漁協 平良市 生産グループ	<p>サラネット 1.5 m×10 m×10枚 モズク古網 1.2 m×18 m×25枚</p> <p>生育は順調であったが盗難の被害により、生産量は800 kgと少なかった。は800 kgの出荷のみであった。</p> <p>出荷先： 那覇 単価1,500円</p> <p>種苗（モズク盤状体）の越夏保存、育苗、本張り、収穫並びに収穫後の加工処理について実施指導した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 従来糸モズクの盤状体保存タンクに網付し、沖出ししても糸モズクと沖縄モズクが混みで生育するため盤状体の検算を実施した。 平良市漁協がモズクの加工処理場施設を設置したので農業改良普及所の上原普及員と合同で、モズクバックの味付試験を実施した。 	<p>漁場管理を徹底させ漁協へ一元集荷を指導する。</p> <p>町と協力し、イカダ方式を検討する。</p> <p>モズク養殖グループが増える傾向にあり生産過剰も考えられるので、モズク網の制限を図るため年令による枚数制限を漁協と連携しグループに指導したい。</p>

昭和61年度 普及区域指導活動記録

都道府県名 沖縄県
 改良普及員室名称 八重山支庁農林水産課
 普及区域 八重山地区

事業区分	課	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開
企画事業	八重山地区漁村青少年協議会	漁村青少年協議会	6月	八重山漁協協議室	協議会委員	漁協、市町村	漁業後継者対策事業の検討、策定のための委員会開催 昭和61年度第1回議題 1. 少年水産教室について 2. 青年水産教室について 3. 技術交流会(ウニ加工)について 4. 特別研修(マグロ延縄)について 5. 発表大会について 6. 少年水産教室受講生の追跡調査について 7. その他 昭和61年度第2回議題 1. 発表大会について 2. 営漁講習会について 3. 産業まつりについて 4. 昭和61年度事業計画について 5. その他 昭和61年度第3回議題 1. 昭和61年度漁業後継者対策事業実	漁村青少年の意向集約 実践活動の評価 委員会活動の自主性
			10月	"	"	"		
			3月	"	"	"		

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開
企画事業						施状況報告について 2. 昭和62年度漁業後継者対策事業計画について 3. 昭和62年度普及事業予算状況説明について 4. 漁業後継者調査について 5. その他	
	沿岸漁業改善資金運用事業	4～3月	管内全域	漁業者 漁協	漁協、市町村 農改普及所	改善資金の事業計画の検討、策定及び申請書類の検討のため運営協議会への参画 経営等改善資金 14件 19,964千円	運用での沿岸漁業改善資金の貸付事業を普及指導し活動の中に取組む
調査事業	漁業公害調査	4月～3月	伊原間港	漁業者	漁協、市町村	沿岸の水質調査 水質測定機器によるDO、PH、比重、濁度、水温の測定。 (結果は主管課報告)	継続実施
	表層浮魚礁調査	4、7月 10、12月	川平沖 黒島沖 与那国島沖	漁業者	青年部、漁協 研究グループ	浮魚礁の増集効果と曳縄釣漁具試験のため3ポイントを調査した。 川平沖のパヤオは、定期的に早かっため魚は小物が釣獲された。 カツオ17尾-23kg, シビ13尾-21kg サワラ2尾-14kgの計32尾-58kg パヤオの位置 N24°-37' E 124°-02'	継続実施

事業区分	課	題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開
調査事業							<p>黒島沖のバヤオ周辺漁場にスク(アイゴの稚魚)が来遊し、これをカツオ・マグロらが生餌としていたので、擬餌針での喰い付が悪かった。</p> <p>カツオ3尾—10kg, マグロ2尾—7kgの計5尾—17kg釣獲した。</p> <p>バヤオの位置 N24°-10' ・ E 124°-07'</p>	
	中層浮魚礁調査		7月	黒島沖	漁業者	研究グループ	<p>昭和55年12月25日に設置した。</p> <p>中層浮魚礁の構造物の耐久性や増集効果を調査した結果、フロートや本体にサンゴや海藻類が相当量付着していた。周辺漁場には、ツムブリ、サワラが回遊しているものの水深が100mと浅いためか、カツオ マグロの回遊がみられなかった。今後、バヤオ漁場のような水深1,000m前後に設置するには、それ相応の技術的要素が必要である。</p>	必要に応じて実施
	沈下魚礁調査 (協力)		1月	西表島沖 小浜島沖	漁業者	研究グループ	<p>魚礁効果調査と並行しながら、投下された魚礁の位置の確認と山立て等の写真撮影を行ない、その効果と位置を周知すべく沿整用務に協力した。</p>	効果調査及び集約

事業区分	課	題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開
調査事業	モズク漁場調査		4月	小浜島沖 西表島沖	漁業者	漁協、市町村 研究グループ	<p>。天然モズクの漁場及び資源調査を行った。</p> <p>昭和61年度生産量</p> <p>竹富町 23,040 kg</p> <p>石垣市 461,029 kg</p> <p>計 484,069 kg</p>	必要に応じて実施
研修事業	技術交流会 学習会		9月 2月	糸満市 名護市 恩納村 古宇利島 石垣市	研究グループ 漁業者	漁協、市町村 水試 漁協、市町村	<p>。シラヒゲウニの収穫後の処理加工技術の交流を通して、資源管理型漁業に向けた意識の改革を図った。(詳細については昭和61年度水産業改良普及活動実績報告書参照)</p> <p>研修期間3日間、参加人員4名</p> <p>。漁業協同組合運動について</p> <p>全国共済水産業協同組合連合会鹿児島県事務所次長・難波義彦氏により「漁業協同組合運動」についての具体的な例をあげて講演が行なわれ、その後グループによる討論方式を実施した。</p> <p>参加人員 30名</p>	継続実施
	全国水産業改良普及職員行政研修		3月 (予定)	東京	普及職員	水産庁	<p>。昭和61年度全国水産業改良普及職員行政研修に1名参加</p>	

事業区分	課	題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開
試験事業	クビレスタ養殖試験		4月～10月	舟浮湾	研究グループ	漁協、竹富町	<p>。養殖方法は、アンドン籠と地張り方式によるもので、4月に入れた母藻は潮や雨により流失した。その後、母藻袋（モジ網）を作り母藻を着生させた結果、着生はよく、ふさも広がりがつあった。しかし中には粒のバラツキや粒自身にグリーン色がなく白味かかった物が多少あった。（詳細については昭和61年度水産業改良普及活動実績報告書参照）</p>	継続実施
指導事業	少年水産教室		8月	水産業改良普及所	中学生	漁協、市町村	<p>。漁村の子弟に夏休み期間中を利用して水産に関する初歩的な知識と技術について学習させ、水産業の役割について理解を図った。</p> <p>八重山地区からは、八重山漁協管内4名、与那国町漁協1名の計5名参加。</p>	継続実施
指導事業	青年水産教室		11月	職員会館	漁業者	漁協、市町村	<p>。神奈川県専門技術員・池田義明氏による「マグロ釣り漁具漁法」についての講演があり、その後活発な質疑応答が行なわれ有意義な青年水産教室がもたれた。</p> <p>参加人員 40名</p>	継続実施

事業区分	課	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開
指導事業	漁村青年婦人活動 実績発表大会		10月	那覇市	青年部 婦人部	漁協、市町村 農改普及所	<p>漁村の青年婦人グループの自主的な研究活動の成果を発表し、相互間の知識の交流と活動意欲の向上を図るため活動実績発表大会に参加した。</p> <p>『漁業後継者を志して』 八重山漁協青年部 名嘉秀三 『私の歩んできた道』 八重山漁協婦人部 並里清子 (第11回沖縄県漁村青年婦人活動実績発表大会資料参照) 。貸付申請手続き及び制度活用指導</p>	継続実施
	沿岸漁業改善資金の 活用並びに調査の指 導		4月～ 3月	管内全域	漁業者	漁協、市町村	<p>有名無実の与那国町漁協青年部の強化を図るため青年部の再結成を指導した。なお、地域の漁業振興を図るためパヤオ設置を前提に八重山漁協西表地区浮魚礁研究会の結成を指導した。</p>	継続実施
	グループ指導		4月～ 11月	与那国町 竹富町 石垣市	青年部 研究グループ	漁協、市町村	<p>網数を前年度150枚より400枚に増やしたが、今年度は水温が高かったせいか藻体の伸びが悪く、しかも雑藻類の付着が多くみられた。 今年度は生産増と品質の向上を図るため、収穫から処理加工までの過程を機械化するよう指導した。 (詳細については昭和61年度水産業改良普及活動実績報告書 参照)</p>	繁殖管理指導を行 なう
	ヒトエトグサ繁殖指導		4月～ 3月	石垣市	研究グループ	漁協、石垣市		